

- 実施主体 環境省 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所
- 実施場所 阿蘇郡市内小中学校、高等学校および地元牧野等
- 実施期間 平成31年4月～令和元年3月



### <背景・ねらい>

熊本市と連携して環境学習に取り組む。「熊本市生物多様性戦略」の一環として、「草原と水と生きもの」というテーマで熊本市の湧水と阿蘇の自然環境（火山や草原）について、熊本市動植物園のゾウを介して学ぶ機会を設けた。学習のねらいは以下の通り。

- ・熊本動植物園のゾウが約30年間阿蘇の草原の野草を食べていることを紹介することで、阿蘇とゾウのつながりに興味を持つ。
- ・草がどのように使われているかを学ぶことで、草原の利活用の方法を知る。
- ・ゾウのエサ用に草を刈ることで、自分たちができることの喜びを知る。
- ・阿蘇に降った雨水が熊本市内に湧き出しているという水のつながりの広域的な学習を行う。

### ■実施概要

- 対象：阿蘇西小学校5年生 18名、6年生 23名
- 実施日：令和元年10月8日（木）事前学習・草原体験
- 実施内容：

#### ①講話

- ・国立公園や草原について（環境省）
- ・水のしくみや動物の様子、アフリカゾウの説明（動植物園）
- ・牛の頭数やあか牛肉のお話（跡ヶ瀬牧野組合坂口組合長）

#### ②草原体験

- ・参勤交代の道の説明と、草花に名札を立てワークシートを使い観察を行った。
- ・ゾウに新鮮な野草を食べてもらうために、子どもたちが草を刈った。



水の学習や動物園の紹介

### ■実施体制

- ・熊本市、熊本市動植物園
- ・場所：車帰原野組合 講師：坂口政次 跡ヶ瀬牧野組合長

### ■成果

- ・子どもたちが刈った草の生重量1t未満（3～5日に分けて与える）。
- ・ゾウと草原の関わりや、動物と地震の話を通して、水の大切さや阿蘇の自然環境に対する興味を持つことができた。
- ・ゾウのエサを刈るという役割を持つことで子どもたちの意識が高まった。
- ・草を刈った範囲を視覚化することで達成感を得られた。
- ・阿蘇の草原と熊本市内の湧水の関わりについて学ぶことができた。
- ・熊本市動植物園のホームページに、学習の様子が掲載された。



牧野組合長のお話



ゾウのための草刈り

### ■実施者の感想

- ・草刈りと草運びの役割分担と、制限時間を設け交代することで、集中力が切れないように工夫した。
- ・降灰がひどくバスの行程や花の開花状況など場所の選定は悩んだ。
- ・熊本市内や県内の方々にも、活動や広報を広げられるようにつなげる。